



中心市街地に、にぎわいの光を。日赤・婦人会館跡地(写真中央)の再開発が本格化します

## 第一章 潤いある快適空間都市

# 中心市街地の再生へ 取り組みが本格化

県都の顔ともいえる、秋田駅周辺や中央街区の再生・活性化に向けての事業が本格化します。道路や公園の整備など、自然と都市が調和した、住みよい都市環境の実現に向けた取り組みも積極的に進めます。

中心市街地に、人が集う  
にぎわいの空間を…

道路網の整備や土地利用など、秋田市のまちづくりの指針となる「第五次秋田市総合都市計画」。今年度も市民のみなさんの意見を聴きながら、平成十三年度の公表に向けて策定作業を進めます。

空洞化対策が急がれる中央街区。日赤・婦人会館跡地については、事業計画の確定および市街地再開発組合の設立認可に向けた支援を継続します。また、市が導入を予定している(仮称)芸術文化ホールについては、実施計画の策定に向け準備を進めていきます。

秋田駅周辺では、駅舎から西口広場に延びる延長七六メートルの人工地盤を、竿燈まつり前に利用できるよう建設を進めます。また、この人工地盤と連絡する仲小路の大屋根(延長約一七〇メートル)は年内に完成します。さらに、駅前北第一地区(金萬本店周辺)では、平成十三年度完成予定の再開発共同ビル建設に対し支援します。

駅東口では、東口整備の中核施設となる(仮称)拠点センターの整備計画の検討を行います。

優良建築物整備事業として、榎山地区の酒造会社に支援します。観光客が酒蔵の見学や地酒の試飲ができる工場や、住居などが複合した施設

## 秋田市の 財政状況を 見てみる。

財政に関するいろいろな指標を調べて、秋田市の財政状況がどうなっているのかわてみました。(11面まで続く)

財政構造の弾力性を示す

### 経常収支比率

70〜80%程度が適正

市の支出のうち人件費や公債費(借金の返済)など、毎年度経常的に、必ず支払わなければならない経費を「経常的経費」といいます。

また、市税や地方交付税、地方譲与税など経常的に入ってくる財源を「経常一般財源」といいます。

基本的に使い道が自由な経常一般財源の中から、必ず払う経常的経費に充てられる金額の割合が「経常収支比率」です。比率が低ければ、自由に使えるお金がたくさん残ることになりますので、公共施